東京都

未来を創るかけがえのない子供たちの自立に向けて

～不登校の子供たちへの支援のポイント～

目　次

はじめに …… 2

Ⅰ　不登校の捉え方 …… 2
1　不登校とは
2　不登校の理解の基本 …… 3
3　不登校の子供への支援の視点 …… 4

Ⅱ　子供の様子の変化に気づいたら …… 6
1　学校における支援 …… 8
①　子供・保護者との相談や情報共有
②　支援方策の検討
③　保健室・相談室などで過ごす子供への支援 …… 10
2　学校外の施設等での相談・指導 …… 11
①　教育支援センター
②　ICT 等を活用した学習 …… 12
③　その他の公的な相談機関等 …… 13
④　フリースクール等 …… 14

Ⅲ　教職員の皆さんへ …… 19

Ⅳ　保護者の皆様へ …… 20

令和３年１月

東京都教育委員会

はじめに

令和元年度の都内公立小・中学校における不登校の子供は、約16,000人でした。この5年間だけでも、およそ1.6倍となり、毎年増加しています。

言うまでもなく、全ての子供が将来への希望をもち、その可能性を伸ばしていけるようにすることが大切です。特に、不登校の子供たちには、学校・家庭・地域の大人たちが協働し、一人一人に応じた適切な支援を行っていくことが求められます。

本資料は、不登校の子供たちにかかわる教職員や保護者等が、支援の在り方についての理解を深め、連携できるようにすることを目的に作成しました。

東京都で学ぶ全ての子供たちが、社会において自立的に生きる基礎を養い、豊かな人生を送ることができるようになることを願っています。

Ⅰ 不登校の捉え方

1　不登校とは

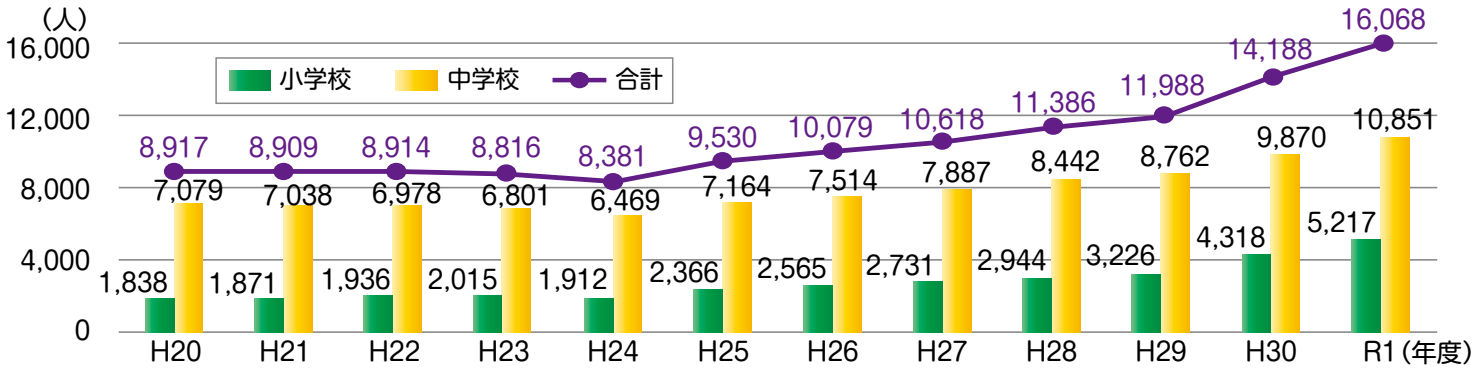
Q：国の調査では、どういう状況のことを「不登校」というのですか？

不登校は、「連続又は断続して年間 30 日以上欠席し、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況であるもの（病気や経済的な理由によるものを除く）」と定義されています。※1

Q：東京都には、どのくらい不登校の子供がいるのですか？

令和元年度、東京都の公立学校に通う子供のうち、不登校の小学生は 5,217 人、中学生は 10,851 人でした。小学生は約 113 人に一人（0.88%）、中学生は約 21 人に一人（4.76%）の割合です。平成 25 年度以降、不登校の子供は、増え続けています。

都内公立小・中学校の不登校児童・生徒数の推移



※1「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）より抜粋
分かりやすくするため、一部、表現等を変えて記述しています。

2　不登校の理解の基本

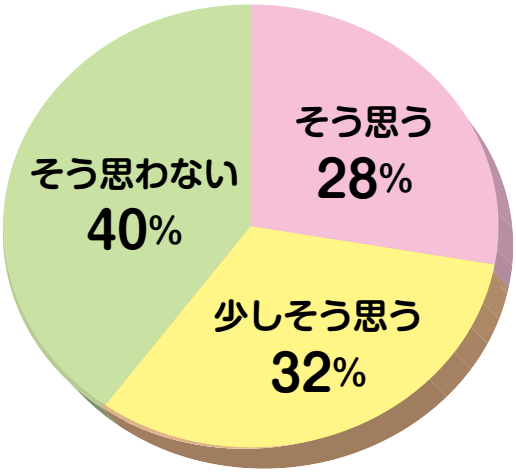
Q：不登校の子供たちの気持ちを、どのように理解したらよいですか？

不登校を正しく理解しましょう。

不登校は、

- **人間関係が崩れたり、勉強がわからなくなったりするなど、様々な要因・背景の結果として起きた状態です。**
- **「問題行動」ではありません。**
- **取り巻く環境によって、どの子にも起こり得ます。**※2

不登校を経験した子供たちのうち、
「学校へ行きたかったが、行けなかった。」と答えた割合



「不登校に関する実態調査～平成 18 年度
不登校生徒に関する追跡調査報告書～」
（文部科学省）より

文部科学省が行った追跡調査によると、不登校を経験した子供たちの約 60%が「学校へ行きたかったが、行けなかった。」と、答えています。※3

不登校の子供は、心の中で自分を否定したり、保護者や友達など、他の人の目を気にすることによる不安や苦しさなどを感じたりしていることもあります。

※2「小・中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総則編（平成 29 年 7 月）」より抜粋
分かりやすくするため、一部、表現等を変えて記述しています。

※3「不登校に関する実態調査 ～平成 18 年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～」（平成 26 年 7 月）より抜粋
分かりやすくするため、一部、表現等を変えて記述しています。

3　不登校の子供への支援の視点

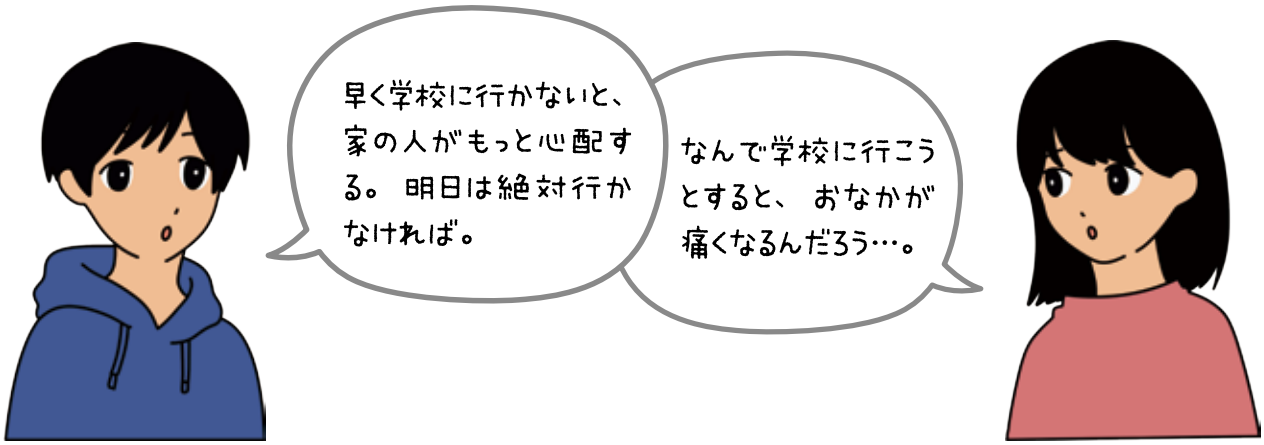
Q：不登校の子供たちに、大人たちはどうかかわったらいいですか？

子供の立場になって考えましょう。

☆　**子供を支える大人たちが、**

- **不登校の子供たちに寄り添うこと**
- **共感すること**
- **思いや考えを受け入れること**

が重要です。



不登校の理解は、子供の気持ちに寄り添うことから始まります。そして、子供への支援は、その気持ちを受け入れることが第一歩となります。

大人たちが支援の視点を理解し、一緒に考えましょう。

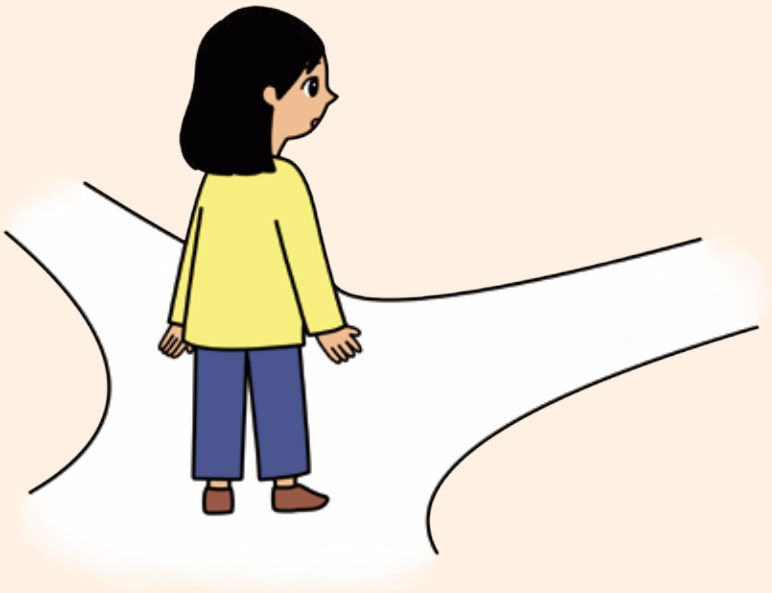
☆　子供たちが学校を休んでいる時期は、子供たちにとっての心身の休養であったり、自分を見つめ直すなどの積極的な意味をもったりすることがあります。

☆　学校を休む時期が長くなることで、学習の遅れや進路選択上の不利益、社会的自立へのリスクにつながる可能性があります。周りの大人たちが、丁寧に接することが必要です。

☆　不登校の子供たちにとっての目標は、「学校に登校すること」だけではありません。自分の進路を主体的に捉えて、社会的自立を目指すことが重要です。

☆　保健室や相談室で過ごしたり、家で ICT を活用して、オンラインなどで学習を進めたりすることも社会的自立に向かう方法の一つです。

※3・4



※4「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（元文科初第 698 号）より抜粋
分かりやすくするため、一部、表現等を変えて記述しています。